

| 内 容 | 意見者 | | 資料2での 反映状況 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-----------|---------------|
| 人口減少社会を見据えた多様な担い手・労働力確保について | | | |
| <新規就業時の支援> | | | |
| 新規就農で資金が少ない場合、「移住就農まるごと支援事業」や「就農給付金」は必要な制度。来年度以降も制度を継続してほしい。 | 館岡委員 | 第1回 部会 | 提言1-2 |
| <研修生の受入環境の整備> | | | |
| 研修生が定着するためには、研修生を受け入れる側の環境整備も重要であるため、受入にあたっての事前準備や体制整備のためのマニュアルが欲しい。 | 今野部会長 | 第1回 部会 | 提言1-2 |
| 技術習得研修において研修先の農家を決める場合、研修生の希望とうまくマッチングできない場合があるため、希望する研修ができるよう体制強化してほしい。 | 館岡委員 | 第1回 部会 | 提言1-2 |
| 研修受入先の全県リストがあれば、就業希望者が希望する研修を選択しやすくなると思う。ホームページを作成していない経営体も多く、就業希望者が自分で研修先を検索するのは限界があるため、リストがあれば便利であると思う。 | 館岡委員 今野部会長 | 第2回 部会 | 提言1-2 |
| 研修生の定着を図るためにも、農業に魅力が感じられるよう研修時期や作業内容など、工夫することが重要である。 | 今野部会長 館岡委員 | 第1回 部会 | 提言1-2 |
| <経営者の育成> | | | |
| 魅力ある農業法人になるためには、雇用者を育成していく上で、給与体系や評価基準を設定するなど、一般の会社のような経営をしていく必要がある。 | 今野部会長 | 第1回 部会 | 提言1-1 |
| やりがいを感じられる会社経営はもちろん、人を育てる技術も身につけていく必要がある。 | 今野部会長 | 第1回 部会 | 提言1-1 |
| ビジネス感覚を持った経営者を育成するためには、先輩農家の経験談や、先進的な取組をしている農家の事例を聞くなど、自分の経営に生かすことができるような場づくりが必要である。 | 今野部会長 | 第2回 部会 | 提言1-1 |
| 業務多忙の中にあっても、経営者や、特に若手の資質向上に向け、経営感覚を養う研修会などに参加しやすい環境をつくってほしい。 | 今野部会長 | 第2回 部会 | 提言1-1 |
| 漁業は、自分で経営し、船を操縦して魚を獲るという「親方」「船長」となることに魅力を感じやすい。 | 佐々木委員 | 第1回 部会 | 提言1-2 |
| <担い手・労働力の確保> | | | |
| 子育てが終わった女性など、労働力として期待できる層をターゲットに農業法人等とのマッチングできるよう生産者とJA、行政が一体となった労働力確保の取組が必要。 | 佐藤（重） 様 | 第2回 部会 | 提言1-3 |

前回部会までの発言整理

| 内 容 | 意見者 | | 資料2での 反映状況 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------|---------------|
| 現在、高齢な農業者が主体となって経営しているところが多く見られ、若い人が農業に就業していないというイメージがあるため、若い人が農業にチャレンジしているところをもっとPRするべきではないか。 | 佐藤（重）様 | 第2回部会 | 提言1-2 |
| 林業の業界全体としては、労働力が不足しているが、秋田市近郊は、若い人が多いことや、機械化を進めていることが要因となって、採用の応募が多く、労働力は充足している。 | 佐藤委員 | 第1回部会 | 提言1-2 |
| 林業大学校からのインターンシップがあり、そのまま就職するルートも確立している。 | 佐藤委員 | 第1回部会 | 提言1-2 |
| 若い人は、インターネットやテレビなどによって、林業に興味を持つキッカケとなり、林業関係企業への入社を希望する者が多い。インターネットやyoutubeなど、メディアを通して多くの人の目に、林業の良さが伝わる機会が増えるような取組をすべきである。 | 佐藤委員 | 第2回部会 | 提言1-2 |
| 漁業の場合、労働力の確保というより、経営者として引き継ぐことの方が大切である。現在、60歳代後半から70歳代が多く、今後船を手放して辞める人が多くなるため、若い人がこの世代から技術伝承を受けて船長になれば、おもしろいと思う。 | 佐々木委員 | 第1回部会 | 提言1-2 |
| 船の価格が高いため、これから辞める人の船でまだ使用できるものは、有効活用すれば良いと思う。 | 佐々木委員 | 第1回部会 | 提言1-2 |

ICT等の先端技術の活用について

<ICT等の先端技術の活用>

| | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-------|-------|
| パワーアシストスーツなどの新しい技術は、最初とつきにくいイメージがあったが、使用してみると思ったより良いと感じたので、積極的に取り入れたい。 | 今野部会長 | 第1回部会 | 提言2-3 |
| GPS田植機は運転中の作業が軽減されるなど、効率が良さそうであった。また、密苗技術に取り組んでいるが、従来の田植えに比べて作業時間が大幅に削減された。今後も様々なものを試しながら、良いものを取り入れていきたい。 | 今野部会長 | 第1回部会 | 提言2-2 |
| AIやICT等の活用においては、今後、全く発想していなかった作業をする機械やシステムが開発されるだろうと思う。柔軟な発想を持つ若者などにICT等の活用について意見を聞いてみたら面白いと思う。 | 今野部会長 | 第2回部会 | 提言2-1 |
| ICTを活用した花きの自動給水やトマトの自動環境制御など、ICTを活用した農業は今後、ますます必要になる。 | 佐藤(重)様 今野部会長 | 第2回部会 | 提言2-4 |
| 秋田県の漁業では、専門的な知識を持った人でなければ、ICTの活用は難しいのではないか。 | 佐々木委員 | 第1回部会 | 提言2-1 |
| 魚はどの時期に、海のどこにやってくるか決まっているため、ICTを活用して漁獲情報などをデータ化できれば、漁業の未経験者であっても魚を獲ることができる。 | 佐々木委員 | 第2回部会 | 提言2-5 |
| 林業においては、ICT活用による業務の合理化・効率化を図るため、供給側と需要側のマッチングや、資料のデータベース管理ができるシステムの開発を進めている。 | 佐藤委員 | 第1回部会 | 提言2-5 |

| 内 容 | 意見者 | | 資料2での 反映状況 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------|---------------|
| 木材クラウド以外に、ドライブレコーダーのGPSを活用して現場の位置情報の管理ができるよう開発を進めており、事務所での現場作業員の位置情報の把握や作業員相互の位置情報の確認により、作業の効率化につながると考えている。 | 佐藤委員 | 第2回 部会 | 提言2-5 |
| 林業においても、造林作業に活用するため、パワーアシストスーツの開発を進めて欲しい。 | 佐藤委員 | 第2回 部会 | 提言2-3 |

複合型生産構造への転換に向けた取組のパワーアップについて

<流通販売対策>

| | | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------|-------|
| 生産者の収益を向上させるためには安く売らない工夫も必要であり、そのため、GI登録など、他の製品と差別化する戦略を強化すべき。 | 佐藤(重)様 | 第2回 部会 | 提言3-4 |
| 秋田県民に秋田のものの良さを伝えるため、地元への出荷量を増やすなど県産農産物を知る機会を増やしてほしい。例えば、ブラウブリッツやハビネツのスポーツイベントで県産農産物を食べてもらうなどの取組に支援して欲しい。 | 佐藤(重)様 | 第2回 部会 | 提言3-4 |

<輸出促進>

| | | | |
|----------------------------------------------------------------------|-------|-----------|-------|
| 国内需要が減少する中であって、海外に新たに市場を求めため、輸出にシフトすることは避けて通れないと思うので、輸出に向けた取組も必要である。 | 今野部会長 | 第2回 部会 | 提言3-4 |
|----------------------------------------------------------------------|-------|-----------|-------|

中山間地域対策について

| | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------|-------|
| 秋田の天候や中山間地域の冷涼な気候に適する品目、冬場に生育できる品目の作付を進めていくべき。 | 佐藤(重)様 | 第2回 部会 | 提言5-1 |
| 中山間地域の活性化に向けて、例えば、外国人観光客から地域に滞在してもらい、その良さを世界に発信してもらうことで、新たな観光客が地域を訪れるような取組を進めるべき。 | 今野部会長 | 第2回 部会 | 提言5-1 |
| 自然豊かな中山間地域において、農福連携により障害者やひきこもりの方々の自立支援する場をつくることで、地域を活性化できるのでないか。 | 今野部会長 | 第2回 部会 | 提言5-1 |
| 各地で自然災害が多く発生している中で、農地や山林等の保全管理、防災等の対策に取り組むべき。 | 今野部会長 | 第2回 部会 | 提言5-4 |